

感染症



感染症とは、ウイルスや細菌などの病原体が経口・経皮その他種々の経路により体内に侵入して増殖し、または毒素を出して発熱や下痢、咳などの症状がでることをいいます。

近年、抗生物質やワクチンの開発など医学の進歩により、赤痢やコレラなどの患者は減少しました。一方、エボラ出血熱やエイズ及びSARS（重症急性呼吸器症候群）など30種類を超える新型の感染症が出現しています。

日本でも新型インフルエンザが流行したり、腸管出血性大腸菌O157やO111による集団発生が起こったりしました。

感染症のほかに、破傷風やツツガムシなどのように人から人へうつらず動物や昆虫から、あるいは傷口から感染する非伝染性の感染症も含まれています。感染してもほとんど症状がでずに終わってしまうものもあ

パンデミック

『パンデミック』とは、限られた期間にある感染症が世界的に大流行することをいいます。また、英語の「pandemic」は世界的な流行という意味を持っています。

2009年4月に北米大陸で発生した新型インフルエンザは、世界中に拡大していきました。同年6月に世界保健機関（WHO）は「インフルエンザ・パンデミック（世界的大流行）」を宣言し、これにより『パンデミック』という言葉が世界的に広く知られるようになりました。過去に発生したインフルエンザの

れば、一度症状がでるとなかなか治りにくく、時には死に至るような感染症もあります。

日本でも新型インフルエンザが流行したり、腸管出血性大腸菌O157やO111による集団発生が起こったりしました。

感染症の予防には、ワクチンの予防接種、マスクや手袋などの使用、予防投薬などがあります。日常的にできる予防法は、うがい、手洗い、タオルの共有をしないなどで病原体を体内に侵入させないようにすることです。

パンデミックには、1918年のスペインインフルエンザ（スペイン風邪）、1957年のアジアインフルエンザ、1968年の香港インフルエンザ、1977年のソ連インフルエンザなどがあります。

新型インフルエンザのパンデミックは10年から40年の周期で発生するといわれています。現在では人口の増加や都市への人口集中、飛行機などの交通機関の発達などから、短期間に世界中に拡大し、大きな被害をもたらすことが予測されています。

パンデミックがいつ発生するかを予測することはできません。新型インフルエンザの発生からパンデミックに至るには短期間の可能性は高く、パンデミックが起こる可能性を十分に理解し、各地域の状況や環境に合わせたパンデミック対策を知っておくことが大切です。

パンデミックが起る可能性を十分に理解し、各地域の状況や環境に合わせたパンデミック対策を知っておくことが大切です。

感染症の分類

感染経路で分けると

1. 人から人へ感染
2. 動物や昆虫から人へ感染
3. 土の中にいる病原菌が傷口などから感染
4. 食べ物から感染

病原体で分けると

1. ウイルス
2. 細菌、真菌
3. 寄生虫、原虫
4. その他（リケッチア、クラミジアなど）



WHOによる警戒水準（フェーズ）

フェーズ	パンデミック発生の可能性	定義
1	パンデミック間期	ヒトへの感染リスクは低い。
2		ヒトへの感染リスクがやや高い。
3	パンデミックアラート期	ヒトからヒトへの感染はない、または極めて限定されている。
4		ヒトからヒトへの感染が増加している。
5		かなりの数のヒトからヒトへの感染がみられる。
6	パンデミック期	効率良く持続したヒトからヒトへの感染が確立している。

ワクチン

ワクチンは天然痘ウイルスという非常に危険な感染症の研究過程で見られました。英国の開業医エドワード・ジェンナーは、牛のかかる天然痘（牛痘）に感染した人は天然痘にかからないことに気づき、一度感染した病原体に対して抵抗力ができることを発見しました。この発見により多くの人が牛痘の接種を行った結果、天然痘にかかることはなくなり、1980年に天然痘は根絶しました。

人には病原体を排除する「免疫」が備わっており、異物が侵入すると特殊なたんぱく質（抗体）を作り、病原体と闘うリンパ球を増やします。が、初めて感染したときは免疫反応が間に合わず、症状が出てしまうことが多いといわれています。しかし身体は病原体を記憶し、次回侵入した際にすぐに攻撃ができるように抗体を準備するため、二回目以降は感染しても病気になることが減り、症状が軽くなります。これらの動きを利用したのがワクチンによる予防接種です。

ワクチンとは、病原体の感染力を弱めたものや、細菌が出す毒素を無毒化した薬液のことをいいます。ワクチンの接種により病原体に感染することなく抵抗力をつくることができます。

日本の予防接種には、法律に基づいて市町村が行う定期接種と、希望した人に行う任意接種があります。定期接種は危険性の高い病原体の予防接種で、対象年齢前に市町村から通知されます。任意接種は希望者のみを行います。

インフルエンザの予防接種は身近なものです。それ以外の病原体に

対しても感染の危険性のある人は受けておくことでよいでしょう。例えば、狂犬病は日本では撲滅されているため感染する可能性はありませんが、海外などでは蔓延していることがあります。また、高齢者や糖尿病など、免疫力が低下している場合にも予防接種を行ったほうがよい場合があります。



<定期接種> 無料

BCG（結核）、DTP（ジフテリア、百日咳、破傷風）、MR（麻疹：はしか、風しん）、日本脳炎等

<任意接種> 全額自己負担

インフルエンザ、狂犬病、おたふくかぜ、B型肝炎、肺炎球菌、ヒトパピローマウイルス等

体質改善 漢方相談 ダイエット 処方せん 美容エステ

あさひ薬局 開成本店

どんなことでもお気軽にお電話ください。専門のスタッフが丁寧にお応えします！

☎0120-44-0346

佐賀県佐賀市開成3-5-42
TEL:0952-33-0346
FAX:0952-33-0341
営業時間:AM9:00~PM7:00
定休日:日曜・祝祭日

ホームページは
コチラ



あさひ薬局開成店

検索